

中 咲 (人権通信)

発行
令和6年1月10日
徳島市富田中学校
人権教育担当

今月のフォーラム

R5/6/9朝日新聞「おもちゃにジェンダー視点」
R5/4/16朝日新聞「男・女らしさより自分らしさ」
これらの記事を読んで・・・

Q. ジェンダーバイアスをなくし、だれもが自分らしく生きられる社会のために、
自分には何ができるだろうか？



<1年生の意見より>

・最近では、制服にスラックスが加わったり、人生ゲームに「結婚」以外の選択肢が増えたりなど、「自分らしさ」の大切さという考えが広がってきました。自分の性で悩んでいる人もたくさんいるとわかりました。みんなが生きやすい社会にするためにジェンダーバイアスを持たないようにしたいです。

・誰もが自分らしく生きられる社会とするために、私は性別で人を判断しないことを大切にしたい。最近学習した「アンコンシャスバイアス」も、「女といえば～、男といえば～」といった事例が出てきていたので、同じことかなと思った。

・一人でも多くの人に「ジェンダーバイアス」という言葉を知ってもらおうことが大切だと思った。そのために、まず自分が「ジェンダーバイアス」という言葉を正しく知り、家族や友達に伝えて広めていくことが、自分にできることではないかと思った。

・僕自身も「男ならこうだ、女ならこうだ」と無意識のうちに想像してしまいます。誰もが「特別」とは思わないようになると、たくさんの方が生きやすい社会になると思います。これからはジェンダーにとらわれない「自分らしさ」を大切に生きていきたいです。

・記事を読んで、最近のおもちゃやゲームはジェンダーを意識し始めているのだとわかりました。私は誰もが自分らしく生きられるために多様性を受け入れる心を持ち、それをいろいろな人に広めようと思います。

<2年生の意見より>

・「男だから～」「女だから～」という言葉を使わないことができると思いました。性別によって無意識に思い込んでいることが多いからです。

・私たちは知らないうちに固定観念で様々なものを決めてしまっていると感じた。でも、無意識な決めつけが、他の人を生きづらくさせたり、苦しくさせたりしてしまうと思う。だから、性別で悩んでいる人が言いやすい環境を作ることが大切だけど、それはとても難しいと思う。だが、誰もが生きやすい社会にするために、温かい理解をすることが大切だ。

・自分でも気がつかないうちに思い込みの固定観念があると思う。そういったものをなくすためには、広い視野で物事を見るべきと感じた。男女によって「こうあるべき」と決めつけるのはおかしいことであると皆が知る必要があるとも思った。

・ジェンダーバイアスをなくするのは現状ではとても難しいと思いました。多くの方が男女の役割についての固定観念を持っているので、まずその固定観念をなくさないとなかなか受け入れられない人も正直いるのではないかと思います。ですが、ジェンダーバイアスによって生きづらさを感じる人がたくさんいらっしゃるの事実なのでこれからもよく考えていきます。

<3年生の意見より>

・私自身も男女の役割の面で無意識な固定観念を持ってしまっていたと気づかされました。これからは性別から

勝手に思い込んだり、決めつけたりするようなことをせず、
まずは自分自身が変わっていこうと思いました。

・無意識のうちに他の人を傷つけるような発言がないよう
に考えてから行動する。また、それぞれの生き方や個性
を尊重することで、全員が自分らしく生きられるような
社会にすることが大切だ。

・むやみに特別扱いせず、普通に今まで通り接すること
も大切だと思う。特別扱いすることが理解していることに
つながる訳ではないと私は考えているからだ。だからと
いって、悪ふざけでわざと傷つけたりするのは良くない。

・ジェンダーバイアスをなくすために、普段から「これは
偏見ではないだろうか」と考えることが大切だと思いま
す。また、人が好きなものを否定せず、理解することも
大事であると考えます。

・私には、自分の意識を変えていくことが一番早くできる
ことだと思う。自分が普通だと思いつつ、固定観念を
持ったりせずに、広い視野で物事を考えられるようにな
りたい。そのために、多くの人との出会いや一つ一つの
経験を大切にしていきたいと思う。

<保護者・教職員の意見より>

・人権フォーラム6を読んで、人生ゲームのマスで「子ども
を迎える」という表現に統一したと初めて知りました。当
たり前と思っている自分のとらえ方にバイアスがないか、
折にふれて意識や知識のアップデートが大事だと感じま
した。様々な価値観や多様なジェンダーに直に触れ合っ
たり、対話したりできる機会を積極的に求めていくことが、
自分らしさに気づく第一歩だと思います。

・今日からできる具体的なことといえば、「男前」
「女子力」など、男らしさや女らしさを連想させる言葉を
発しないことです。そういう言葉を口にするに対して
違和感を覚える人が、ジェンダーマイノリティと位置づけ
られる人たちだけではなく、世の中の全ての人々に浸透
していくことが大切だと思います。まずは、自分の発言の
見直しからしていこうと思います。

・おもちゃやテレビ番組は、子どもたちに固定観念を押し
つける大きなきっかけになっていると感じる。記事にある
ように、作る側も使う側も高い人権感覚を持って、
アップデートしていくべきだと思う。また、「偏見につな
がる」「おかしい」と感じた時、それを口にして対話のきっか
けをつくっていきたい。

・ジェンダー平等のため、家庭内での家事育児を分担す
るとか、「男の子だから」「女の子だから」と押しつけな
いなど、一人一人が意識的に偏見や固定観念に向き合
うことが必要だと思います。また、学校の授業等にも組み
込み「ジェンダー平等」は今の時代は当たり前と教え
教育していくのもありではないでしょうか。

・どんなことに対しても「決めつけ」によって誰かが苦しめ
られると思う。性別に関するだけでなく、目の前に
いる人をしっかりと理解し、受け止め、お互いに自分らし
さを大切にしていってほしい。

・おもちゃ等にもジェンダーの視点が取り入れられている
ことに驚くとともに、性別にとらわれず生きてきた子ども
たちの意識や思いを学校でつぶしてはならないと感じた。
目の前に必ず生きづらさを感じている子どもが存在する
ことを忘れず、自分の言動には注意していきたい。

・男は男らしく、女は女らしくという固定観念の中で育
ちました。男女雇用機会均等法ができたとき、社会に出
ました。世の中はずいぶん変わったと思います。今になっ
て、やりたいこと、ほしいものを正直に選択してもよかった
んだなと思いますが、自分はそうはできませんでした。だ
れもが自分らしく生きられる社会のためには、自分の考
えを見つめ直すことと、もっとたくさんを知ることだ
と思います。

